



参考：世界銀行「AFRICA DEVELOPMENT INDICATORS 2007」ほか

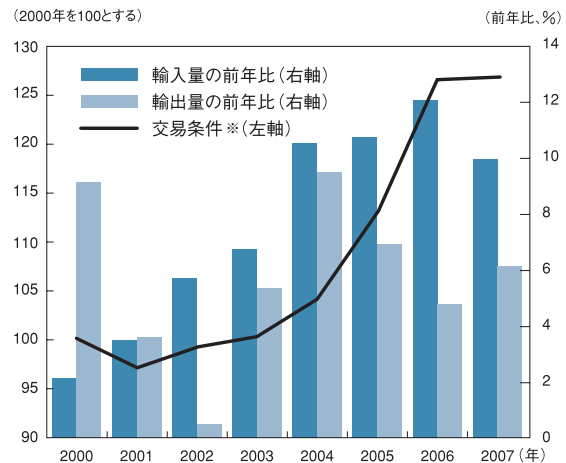
アフリカの成長

28

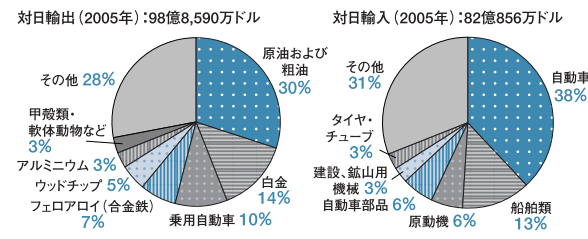
B アフリカの貿易、農業と援助 DATA

出典：経済協力開発機構(OECD)/Development Co-operation Directorate(DCD-DAC) http://www.oecd.org ほか

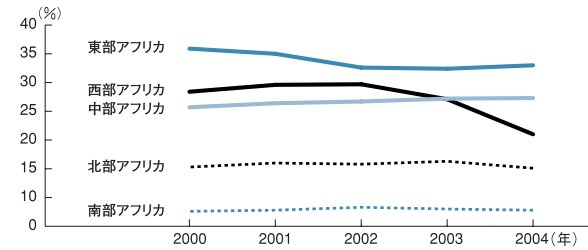
サハラ以南アフリカの貿易



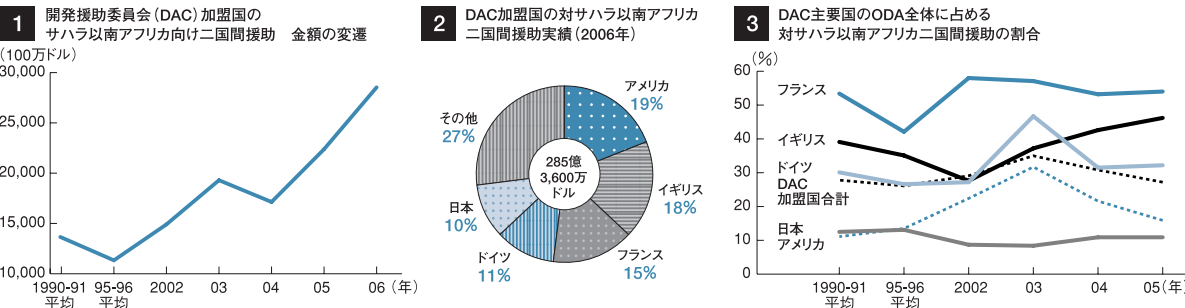
日本との貿易関係



農業セクターがGDPに占める割合



サハラ以南アフリカ向け政府開発援助(ODA)



成長と援助を諸問題の解決のために

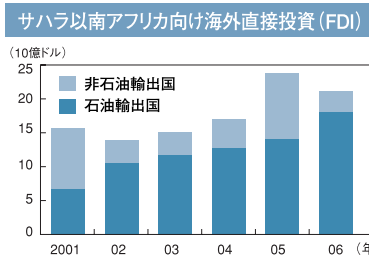
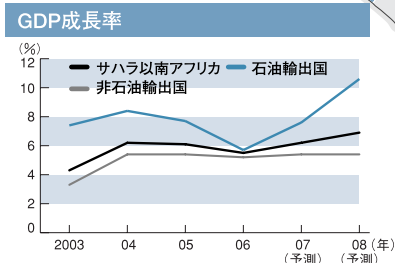
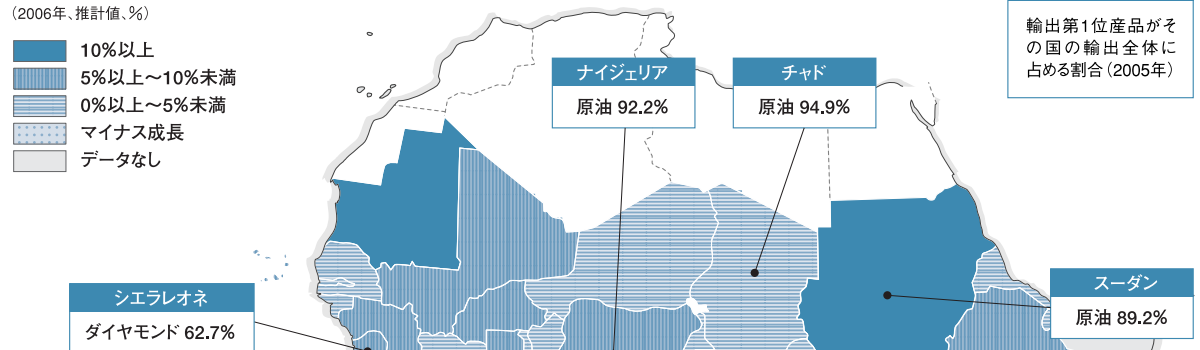
経済成長や投資と同様、貿易も増えている。とはいえ、世界の貿易に占めるアフリカの割合は1.5%とまだ小さい。輸出で好調な伸びを見せているのはやはり資源輸出国だ。日本もアフリカから多くの地下資源を買っている。アフリカでは輸出よりも輸入の伸びが大きい。輸入品の多くを占めるのは食料だ。農業が主な産業とはいえ、アフリカの多くは食料輸入国なのだ。2004年、いくつかの地域で農業生産が減少した。これは干ばつの影響と思われる。貴重な外貨を食料に使

うのではなく、食料輸出で稼ぐためにも、気候変動の影響を受けやすい農業への支援が求められる。ミレニアム開発目標(MDGs)の達成で遅れをとるアフリカには、援助が集中して注がれるようになった。経済協力開発機構(OECD)開発援助委員会(DAC)加盟国によるアフリカへの政府開発援助(ODA)は急増し、各援助国の援助割合も増えている。投資やODAといった外部からの資源をアフリカの開発にいかにかすか。5月の第4回アフリカ開発会議(TICAD)7月の北海道洞爺湖サミットの動向が注目される。

A 成長するアフリカ DATA

出典：アフリカ開発銀行(AfDB)/経済協力開発機構(OECD) African Economic Outlook 2007 ほか

サハラ以南アフリカ諸国の国内総生産(GDP)成長率



豊富な資源がアフリカの成長を牽引

2006年、サハラ以南アフリカは全体で5.5%の経済成長を遂げた。この成長は07年、08年も続くと思われる。近年のこの成長を牽引しているのは、アフリカが持つ豊富な資源だ。石油や鉱物資源の価格高騰を背景に、今世紀に入って外国からの資源開発投資が増えている。また、中国をはじめとしたアジアの急成長も、アフリカの資源に対する需要を押し上げている。例えば06年のアフリカから中国への輸出は、1995年の12倍と急増した。

これらを背景に高い成長率を見せているのは、ほとんどが資源産出国だ。だがそれらの国の多くは、輸出をたった一つの資源に頼り切ったいびつな経済構造になっている。もしも資源の価格が急落したら、その国の経済はたちまち不安定になるだろう。成長が続いているとはいえ、サハラ以南アフリカの人々の4割は、1日1ドル未満の生活を強いられている。資源から得られる収入を、保健衛生や教育などの基礎的サービスへのアクセス改善やインフラ整備など、産業の多様化に必要な部分に投資することが求められている。